

津田塾を創設した津田梅子の 妹・余奈子が遺愛に在学していた！？

7月6日（土）10:30より、遺愛のホワイトハウス（旧宣教師館）で、1年に1度の「七夕の会」と称している遺愛旧教職員の交流会がもたれました。全員で16名参加で、それぞれの近況について語り合いました。皆さん元気そうで、充実した毎日を送っていらっしゃいました。

遺愛では生物教師だった作山宗邦先生も参加されました。先生はライフワークである遺愛の歴史を丹念にひもとく、これまで節目節目に論文を書き上げてきました。今年の遺愛学院創基145周年にあわせて『遺愛学院史 追加の7話 2019』を発行しました。卒業生・在校生を掘り起こし、紹介していますが、近況としては津田塾大学を創始した津田梅子の妹・津田余奈子を調べ、遺愛に在学していたことを明らかにしました。

津田余奈子は29歳の時に結婚して、アメリカで生活するのですが、1923（大正12）年9月に関東大震災で津田塾の前身である英学塾が焼失した時には、アメリカで募金活動を積極的に行い、作山先生のお話によると当時で100万ドルを集め、津田塾再興のために献金しました。この献金なくしては今の津田塾はありませんでした。

津田余奈子は1880年12月6日に津田仙、母初子の五女として誕生（二女が梅子）し、1890年に須藤米吉、八重野の養女になり、共に来函し、遺愛女学校に入学しました。余奈子は遺愛には6年近く在籍しますが、卒業はせずに1896年7月に東京に戻り、9月に華族女学校へ転学し、1899年に華族女学校を卒業し、津田英学塾に入学します。1907年には姉の津田梅子と共に欧米視察旅行に出ています。1909年安孫子久太郎（新聞「日米」発行者）と結婚し、渡米します。夫の死後は新聞「日米」の出版人を受け継ぎ、1944年3月7日に死去します。

津田梅子は、2024年からの新札発行にともない、新しい5,000円札の候補者になっています。もし実現したら、遺愛に在学した津田余奈子にも光があてられる時がくるかもしれません。

2019年7月8日（月）



「七夕の会」に参加した遺愛旧教職員